

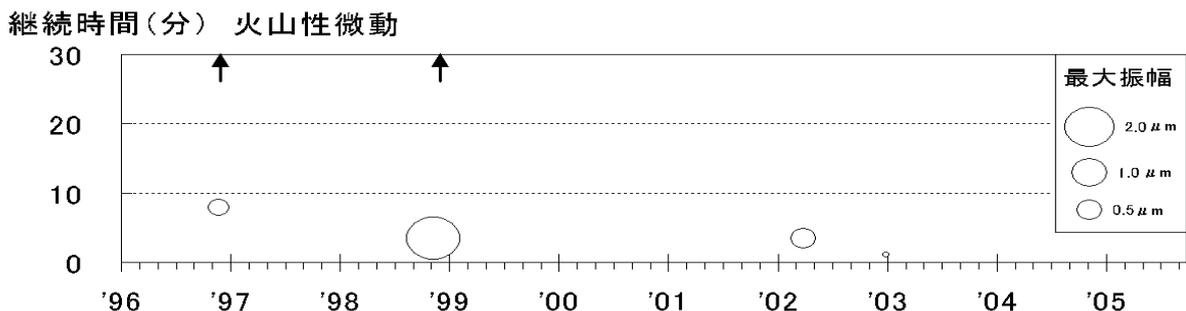
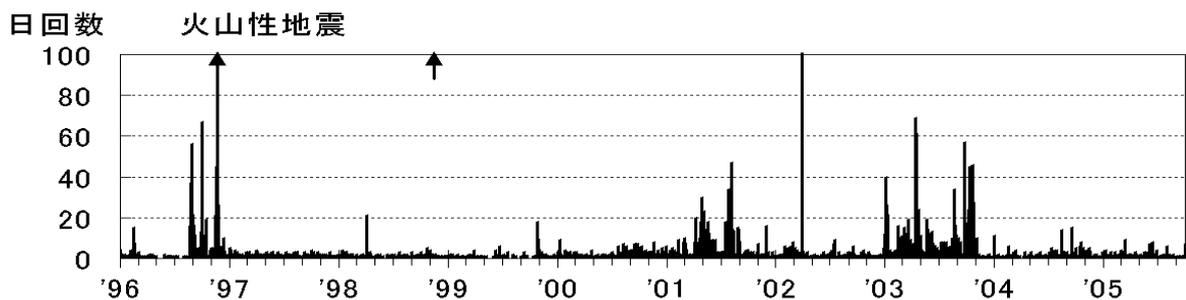
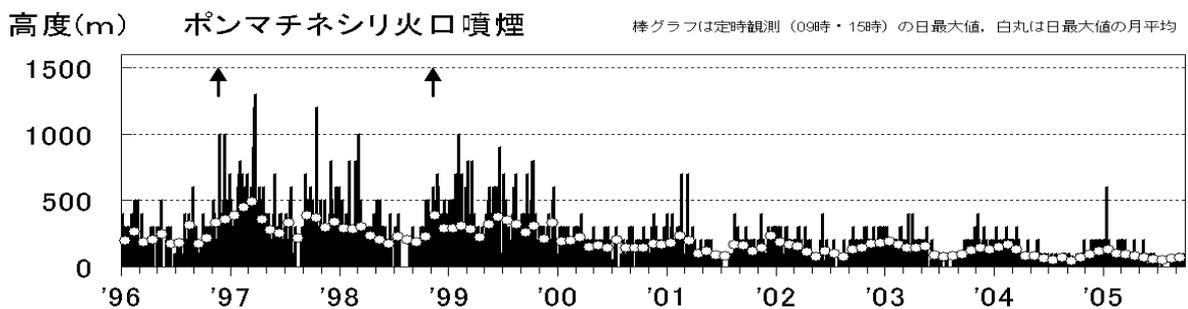
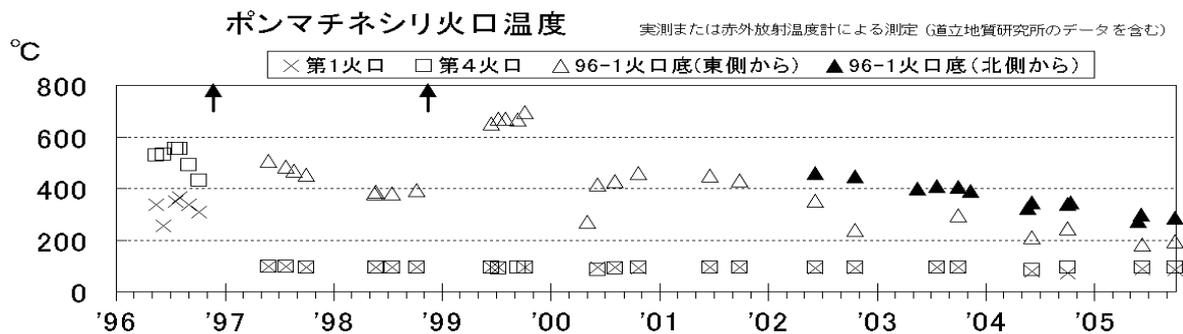
# 雌阿寒岳

## 1 概況

26～30日に実施した調査観測の結果、各火口の状況に変化はありませんでした。地震は少ない状態で経過しており、火山活動は比較的静穏な状態となっています。

## 2 噴煙の状況

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙の状況は前期間（8月）と大きく変わらず、噴煙の高さは火口縁上おおむね 100m以下で推移しました。噴煙の高さや噴出の勢いは 2000 年以降やや低下した状態が続いています。



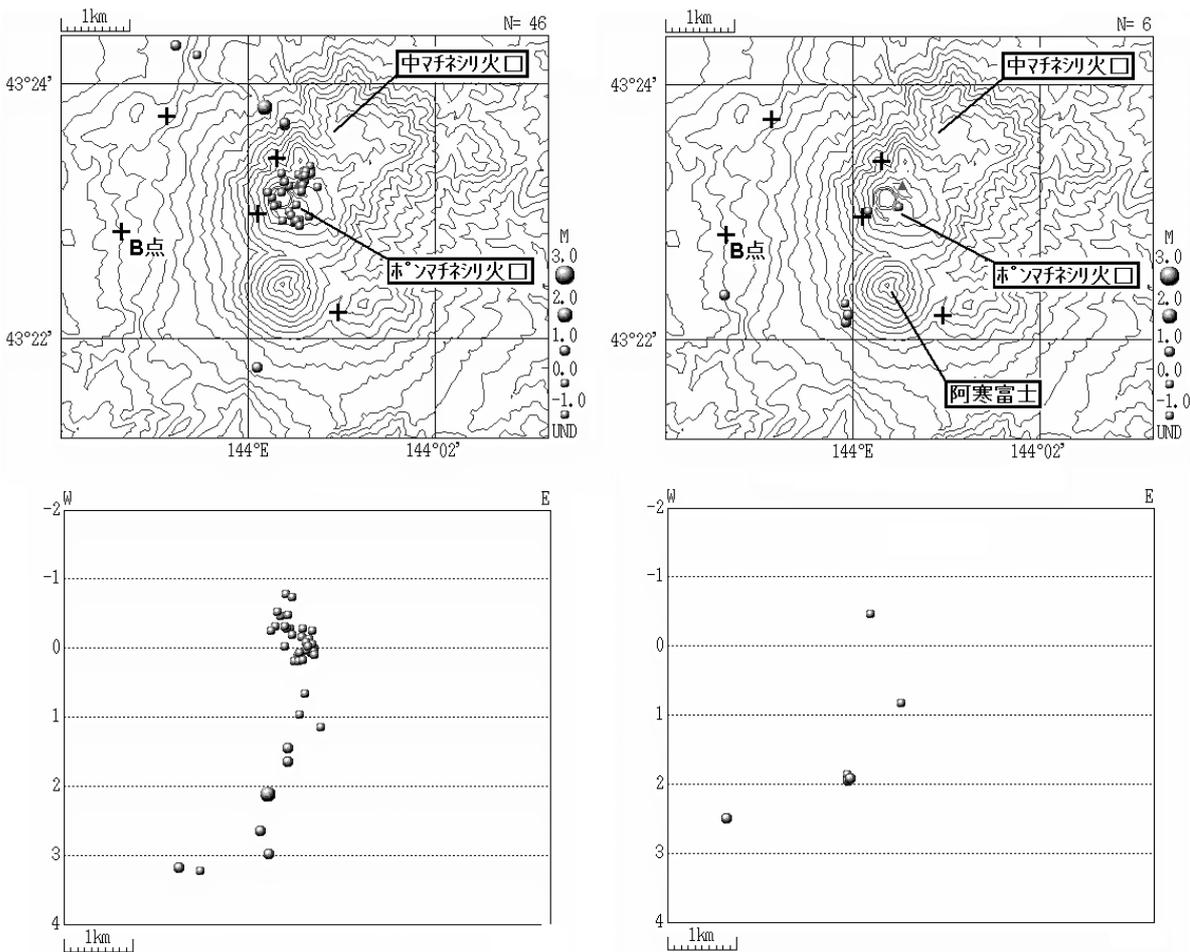
最近の火山活動経過図（1996年1月1日～2005年9月30日） 印は噴火

### 3 地震および微動の発生状況

ポンマチネシリ火口付近を震源とする地震は 1 日あたり 0～1 回と少なく、静穏に経過しました。火山性微動は 2003 年 1 月以降観測されていません。

地震・微動の月回数（B 点）

| 2004～2005 年 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
|-------------|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 地震回数        | 40  | 28  | 9   | 26 | 19 | 32 | 20 | 20 | 40 | 14 | 16 | 18 |
| 微動回数        | 0   | 0   | 0   | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  |



雌阿寒岳の震源分布図（丸印：震源、+印：地震観測点）

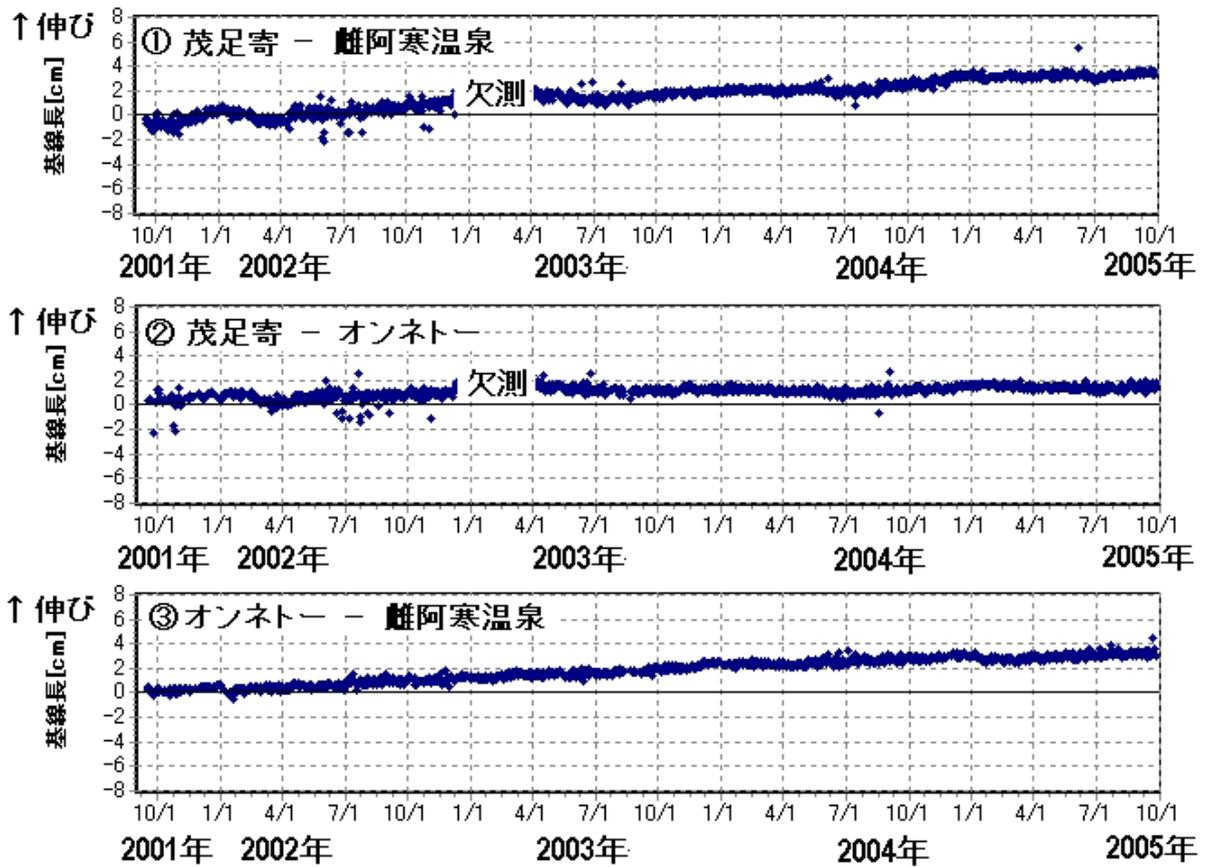
右図は今期間（2005 年 9 月 1 日～30 日）に求まった震源を示しています。

左図は前期間までの約 11 ヶ月間（2004 年 10 月 5 日～2005 年 8 月 31 日）に求まった震源を示しています。

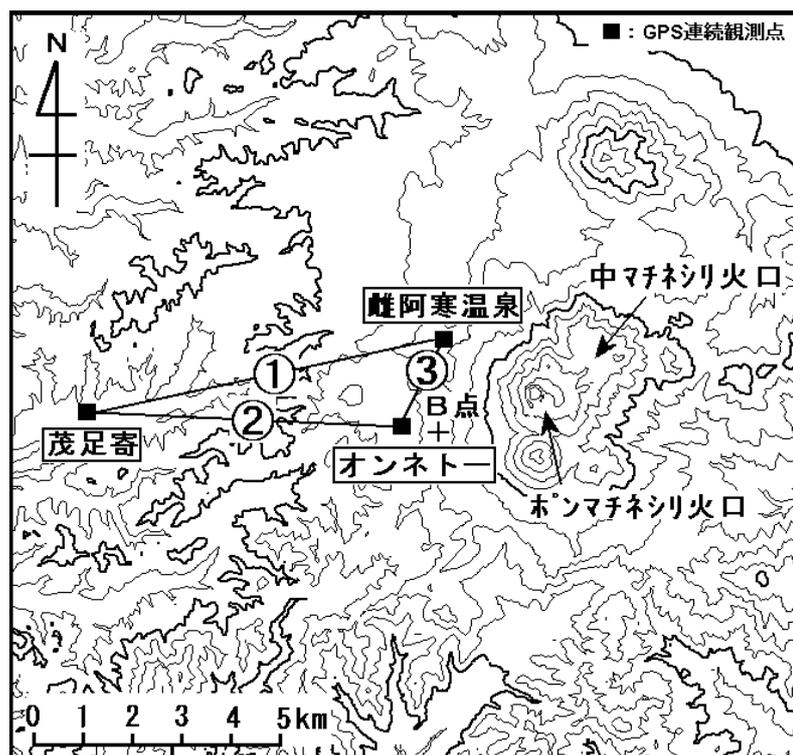
震源はポンマチネシリ火口直下の海面付近と北西山麓のやや深いところ（海面下約 3km）に分布しています。今期間の震源はこの領域内に加え、阿寒富士や南西麓のやや深いところにも分布が見られます。

4 地殻変動の状況

GPS連続観測では、わずかな伸びの傾向を示す変動が認められていますが、火山活動との関連については今後の推移を見て判断する必要があります。



基線長変化(2001年9月19日~2005年9月30日)

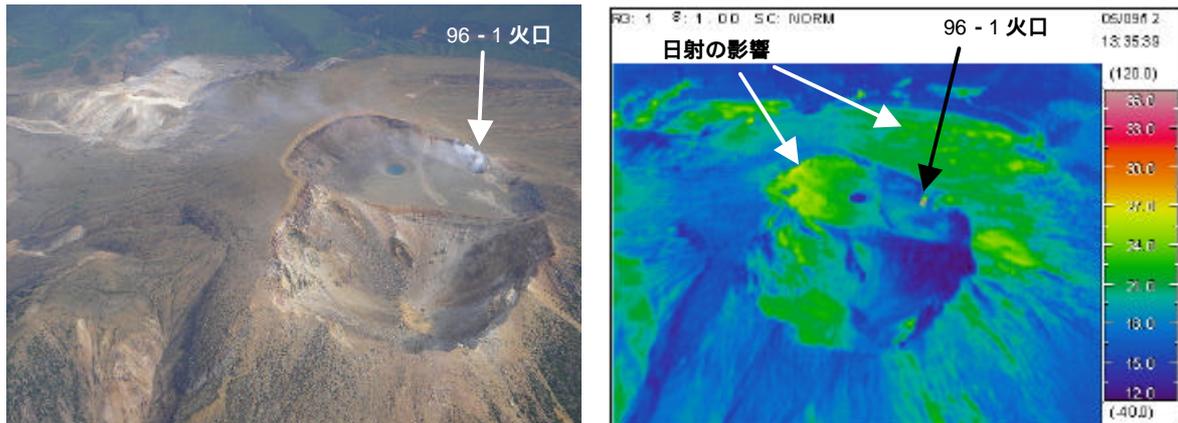


5 上空からの観測結果

9月12日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、ポンマチネシリ96-1火口、赤沼西方噴気孔および中マチネシリの噴煙の状況に、これまでと比べて大きな変化はありませんでした。

ポンマチネシリ96-1火口では白色の噴煙が数十m上昇し、その後風により北東方向へ流れていました。

赤外熱映像装置\*による観測では、各火口やその周辺の温度分布に変化は見られませんでした。



左：北西側上空から撮影したポンマチネシリ火口

右：赤外熱映像装置によるポンマチネシリ火口の表面温度分布

(火口内及び火口周辺の、南から西側斜面の高温部分は日射の影響によるものと考えられます。)



北東側上空から撮影したポンマチネシリ火口と中マチネシリ火口



東側上空から撮影した中マチネシリ火口

\* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

## 6 調査観測の結果

9 月 26 日～30 日に調査観測を実施しました。ポンマチネシリ 96-1 火口の温度は約 290（前回：本年 6 月 7 日約 300 ）で、引き続き低下傾向が認められました。

その他の火口については、前回（本年 6 月）と比べて噴煙の状況、温度等に大きな変化はありませんでした。

### 【ポンマチネシリ火口】

#### ・ 96-1 火口

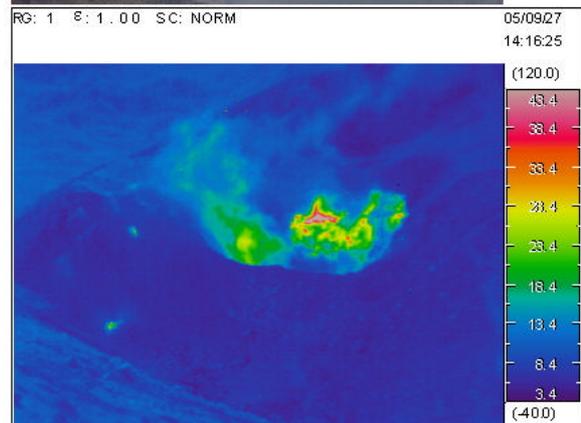
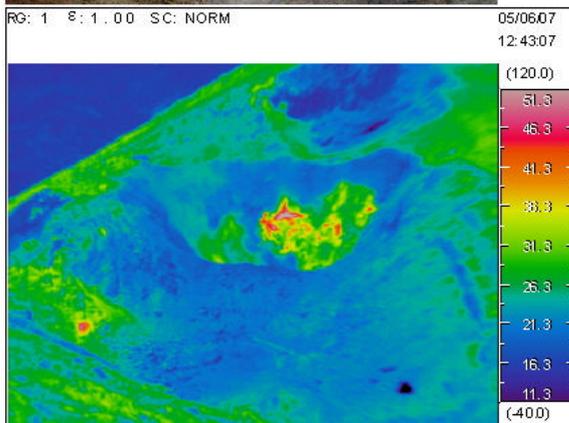
火口底の噴出口からは透明な火山ガスが連続的に噴出しており、火口縁ではわずかに刺激臭が認められました。

96-1 火口北側火口縁から赤外放射温度計\*により測定した温度は約 290（前回：本年 6 月 7 日約 300 ）で、2000 年以降の低下傾向が引き続き認められました（1 項「最近の活動経過図」参照）。

噴気の強さは前回と比べて特に変化はありませんでした。赤外熱映像装置\*による火口内の表面温度や温度分布の測定では、高温域の拡大は認められませんでした。



96-1 火口底の状況（北側から撮影）

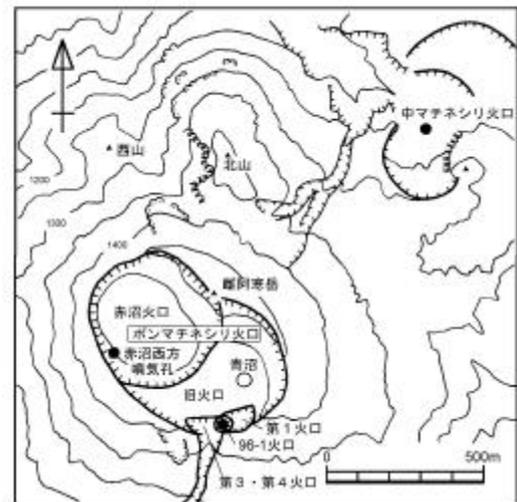


赤外熱映像装置による 96-1 火口及び第 1 火口の表面温度分布  
（左：2005 年 6 月 7 日 右：2005 年 9 月 27 日）

- ・ 赤沼西方噴気孔  
噴気の量は少ないですが、明瞭な音を伴い勢いよく噴出していました。噴気孔周辺の変色域や高温域の範囲は前回と比べて大きな変化は見られませんでした。
- ・ その他の火口  
第 1 火口、第 3 火口、第 4 火口では引き続き弱い噴気や変色域が認められましたが、前回と比べて大きな変化は見られませんでした。

【中マチネシリ】

火口内の熱活動の状況は、前回と比べて大きな変化は見られませんでした。  
火口内の多数の噴気孔から白色の噴気を勢いよく噴出しており、噴気にはやや強い刺激臭が認められました。また、数ヶ所の噴気孔からは熱泥水の噴出も見られました。



雌阿寒岳火口周辺図



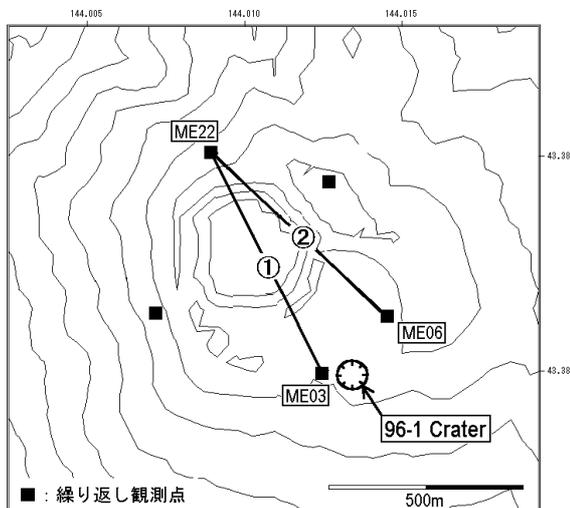
赤沼西方噴気孔（東側から撮影）



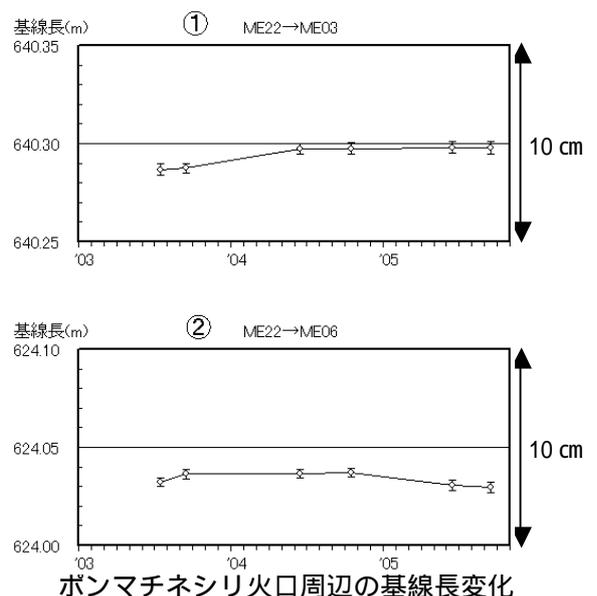
中マチネシリ（山頂から撮影）

【GPS 繰り返し観測】

GPS 繰り返し観測では、ポンマチネシリ火口を囲む基線で火山活動に関連する変動は観測されませんでした。



山頂 GPS 繰り返し観測位置



ポンマチネシリ火口周辺の基線長変化